

筑紫女学園報 Report

75

2011 September

2011年(平成23年)9月7日



特集

「筑女の教育」最前線レポート2011

筑紫女学園 ならでは の

「きめ細やかな教育」、徹底検証!

学園だより

学園／平成22年度 決算報告について
大学・短期大学部／「学生チャレンジプロジェクト」が始動 ほか
高校&中学／「洗心庵・待合・香風亭」が国の登録有形文化財に認定 ほか
幼稚園／恒例の味噌づくり ほか

その教育 しなやかで、ゆるぎない。
学校 筑紫女学園
法人

<http://www.chikushi.ac.jp>

筑紫女学園

検索



▲写真は最近の授業風景。これまで「学校案内」などでの取材をとおして、多くのOGから「筑女の授業は楽しかった」「勉強はもちろん、今の人生につながる話が聞けた」などの声をいただいています。

OG教職員が語る「筑女の教育とは?」「学生・生徒・園児へのサポート体制」……

筑紫女学園

ならでは

の「きめ細やかな教育」、

徹底検証!

周囲の皆さまから「面倒見が良い」「きめ細やか」との評価をいただくことが多い本学園各学校の教育。しかし、それを具体的な数値や形で表わすことは非常に難しいものです。そこで今回は、本学園OGであり、現在、各学校の最前線で学生・生徒・園児の指導にあたっている教職員の鼎談やインタビューをとおし、学園全体に通底する筑女流の「一人ひとりと向き合う教育」と、その根底にある「筑女イズム」を明らかにします。

Part -1

中学・高校OG教員鼎談

生徒一人ひとりと向き合う手間や時間を惜しまないのが「筑女流」の基本です

生徒と教員の在り方に
魅力を感じる、
教員にとっても
恵まれた学び舎

永末 先日、改めて調べて
みたら、中学・高校全教員の
15%にあたる14名が本校の
OGだったんです。OGが
これほど母校に戻っている
学校は少ないのでは?

塚本 私は筑女で先生方から
受けたご恩をお返しした
くて教員になったのですが、
そんなにいらつしゃるとは
知りませんでした。

三浦 私は大学院で研究を
続けようと思っていました
が、たまたま筑女で教鞭を

とる機会に恵まれ
て、その時「専門書
より、人と向き合う
の方が楽しい!」と。

永末 分かります。
筑女って「先生って
素敵な仕事だな」
と思わせてくれる
学校ですよ。

三浦 今も昔も生徒一人ひとりに、学ぶことの面白さを伝えようとする先生が多いんです。私の生徒時代の記憶では、「学ぶとは?」「知識とは?」「本当に賢い女性とは?」といったことを、懸命に伝えようとしてくださっていました。



▲「筑女は私が生徒だった頃から、授業にしっかり取り組み、塾に行かなくても受験勉強は大丈夫だと思える学校でした」と振り返る永末朋子教諭(英語担当/高校OG/平成19年奉職)。

塚本 私の場合、生徒と教員の在り方に魅力を感じて「筑女で教鞭を!」と決意しましたし、今の私の原動力にもなっているんですよ。筑女は生徒だけではなく、教員にとっても恵まれた学び舎だと思います。

永末 その理由の一つには、筑女が女子校だということ



もあるのでは？

三浦 そうかもしれないですね。本校の生徒はもともと知的好奇心が高いと思うのですが、女子校ということ、授業などでそうした思いを誰にも気兼ねなく追求できるというか。生徒たちを見てみると、学ぶことを素直に楽しんでるように感じます。

永末 自分の生徒時代を思い出すと、先生方がとてもアカデミックで、自分自身、気持ちがいざなうとしたものでした。易きに流れない空気があつて。

塚本 たしかに。先生方が生徒に注いでくださる情熱がすごかったですね。さつき、恩返しって言いましたけど、「あの時こうしてもらったから」といった具体的な思い出しというより、絶えず見守り、サポートしてくださっていた印象が残っています。

三浦 永末先生がおっしゃったように、易きに流れない先生方の姿勢を私たちが世代が受け継ぎ、生徒が



▲「在学中は茶道部でした。「洗心庵」などの文化財になるような場に身を置く経験は、人生を豊かにしますね」と三浦尚子教諭(国語担当/中高OG/平成10年奉職)。

将来の指針にしてくれるような存在でありたいですね。

制度以上の取り組みを支える教員の情熱と行動的な生徒たち

永末 実際、生徒の将来を考えると、日々の指導には熱が入りますね。私は生徒時代、担任の先生のおかげで「志望校に合格できるんだろうか」といった不安を一切持たずに受験に臨めたのですが、今の生徒たちにも同じ状況をつくってあげよう、と。

塚本 そうですね。例えば高校では、通常のカリキュラムとは別に臨時に補講を組んで、任意に参加者を募ることがありますが、生徒たちはみんな熱心に参加して

くれますし、やりがいも感じます。カリキュラムとして制度化していること以外に、教員が現状を判断しながら、臨機応変に取り組むことが多いのも筑女の特長でしょうね。

三浦 必要な時を逃さないことが大切ですからね。理解できていないとか、今が肝心だな、と思ったらずぐにフォローしないと。それは中学も同じですよ。

永末 そうですね。中学のカリキュラムは将来的な土台となるので、苦手な部分を先送りして後で苦しまないように、時間が許す限り再テストという形で対応しています。

永末 それから、これも筑女の特長と言えるところですが、生徒が職員室へ質問に訪ねて来ることが多いでしょう？

塚本 ええ。「誰か数学の先生、いらつしやいませんか？」という生徒の声に、私たち

も「は〜い」って手を挙げたり(笑)。生徒側にも「今知りたい!」と思えば、遠慮なく職員室に来てくれる風土が脈々と息づいていますね。

永末 上級生の行動を見ながら、自然と身につけていくみたいですね。質問コーナーにしても、中学生でも高校生と同じような感じで使いこなしていますよ。

変わりゆく時代にもしなやかに対応していく…そんな女性を育成したい

三浦 ところで、中学では先日、臨時の学年集会を開かれたと聞きましたが…。

永末 どんなに小さな問題でも、社会で認められないことについては、生徒同士、あるいは教員が生徒一人ひとりと向き合いながら、きちんと正していきたいんです。

塚本 手間や時間がかかることを厭わず、また、個別の

対処だけでなく、全体で向き合うことも大切ですよ。そういった点では、筑女の伝統というか、教員同士が男女を問わずフランクに意見を交わし、生徒たちを見守るといふ雰囲気があるのはありますね。もともと、手をかけ過ぎると自分で考えない子になってしまうという側面もあります。

三浦 そうですね。特に高校からは、生徒自身でいろいろ考えさせることを意識して指導を行っています。やるべきことを自ら考え、失敗してもまた立ち上がられる。そんな「しなやかさ」を育みたいですね。それと、生かされていることに感謝する心も。

永末 私自身、筑女にそう育ててもらいました。浄土真宗のみ教えに触れることができたのは、本当に良い経験だったと思っています。

塚本 パツと身についたように感じると心に残っていない場合が多いのですが、ちよつとしたことにも感謝して自然に手を合

わせる心など、ゆつくりと染み込んだ想いは今も消えません。そうした意味で、私たちが伝えることも、仏教のみ教えも、生徒の将来を豊かにするものであつてほしいと思つています。

三浦 私が意識しているのは、一人ひとりにきちんと向き合うことです。自分に合った道に進むには、個性や状況に則した指導が必要です。大学などへの進学はゴールではないですし、その先まで考える女性になつてほしいですから。

永末 教育の結果はずっと先でないと見えないけれど、自分の恩師がそうであつたように、大人として生徒に毅然とした態度で接し、導きたいと私も思っています。

塚本 人としてキチンと生きていつてほしいという願いは、筑女の教員なら誰もが持つているものだと思いますね。

永末 教育に求められるきめ細やかさは時代とともに変わっていきませんが、今日の話のように、変わらない筑女の良さをしっかりと持つて、力を合わせて頑張っていきましょう。



▲「生徒が安心して学校生活を送るためには、教員同士の協力が大切。この先生についていけば大丈夫と信頼される存在になりたいですね」と語る塚本亮子教諭(数学担当/高校OG/平成11年奉職)。

への取り組み

前ページの鼎談から読みとれるのは、本学園の教育の大きな特長の一つに「一人ひとりを大切にする教育」があるということ。そして、このことは学園全体に通底している特長でもあります。ここでは、本学園の各学校が具体的にどのような取り組みをとって「一人ひとりを大切にする教育」を実践しているのか、その一例をOG教職員のコメントとともにご紹介します。

高校・中学

単なる入試対策ではない、その先を見据えた「進路指導」

高校・中学では、生徒一人ひとりの進路をより良くするために、先を見据えた進路指導を行っています。

1.学習記録帳「蝸牛(かたつむり)」 生徒・保護者・教員が情報共有できる コミュニケーションツール

中学で実施。日々の学習状況を記録する専用ノートです。単に生徒が日々のことを記録するのみならず、教員や保護者が記入する欄もあり、生徒の学習面以外にも日々の生活の様子や個人的な悩みなども三者で共有できるコミュニケーションツールとして活用されています。

2.自習・質問コーナー 始業前や放課後はいつも自習や 質問をする生徒で賑わっています

職員室前をはじめ、校内数か所に机と椅子を設置し、自由に学習できる場として、また教員に気軽に質問できる場として、始業前や放課後にたくさんの生徒たちが利用しています。授業で分からなかったことなどを、納得のいくまで教員と一緒に探究する姿が毎日見られます。新入生も先輩たちの熱心な姿を見て自然と利用を始める生徒が多いようです。

3.進路決定のプロセス 生徒自身の将来の夢を 実現させるための進路指導

本校では、低学年の段階から生徒自身の進路について自ら考えさせる指導を行っています。生徒に自身の将来の夢～社会に出て、どのような生き方をして、自己実現していくのか～を見つけさせ、その実現のために必要な大学進学について調べ、取り組んでいくというように、段階を追いながら進路指導を行っています。例えば、中高一貫生であれば、中学3年次の「職業研究」「職

業講演会」を皮切りに(高校からの入学者は高校1年次に「職業ガイダンス」を実施)、高校1年次の夏休みには「学問・学部学科研究」を、そして高校2年次には「志望校研究」、様々な大学の先生や専門家を招いて出前授業を行う「追夢(ツイム)講座」を実施して、最終段階の高校3年次には「校内大学説明会」などをとおして、各自が高い意識をもって志望校を選択していきます。また、「学年別集会」や、外部講師や筑女OGを招いての「進路講演会」「卒業生との懇親会」などの行事を行い、進路に対するモチベーションの向上を図っています。

4.受験対策 志望校が課す入試内容に 則した受験対策

昨今の大学入試は、一般入試だけでも従来型に加え、センター利用入試、センター一般併用入試、また例えば得意な2教科で合格を出すなど大学ごとの工夫をこらした入試などが行われています。さらに各種推薦入試やAO入試などもあり、様々な形で門戸が開かれているといえます。

本校では、正課授業に加えて全学年で課外授業を行い、徹底した実力養成を行っています。特に高校3年次は「講座制課外」を実施しています。大学別・レベル別に様々な講座が用意され、毎日18時まで行われています。完全希望制ではありますが、8割以上の生徒が意欲的に参加しています。

また、様々な入試で課される小論文についても十分な対策を講じています。高校1年次より小論文模試や講演会などを行い、高校3年では生徒一人ひとりに担当の教員を充てて、できるまで何度も添削するという細やかな指導を行っています。

このような指導以外でも、生徒一人ひとりの夢の実現のために様々な取り組みや指導を教職員が一丸となって行っています。

5.進路サポート体制 進路資料と校内進路情報サイトが 充実した「進路情報室」

生徒の進路に関する情報提供や相談に応じるために、「進路情報室」があります。ここでは全国の大学の入試要項など進路についての各種資料や大学DVDなどが閲覧できます。またPCではインターネットはもちろん、校内限定の「進路情報サイト」を利用することもできます。OGの受験報告書などは多くの生徒に活用されています。また、進路についての質問などには、隣接した進路指導室の担当教員がいつでも対応しています。

もちろん、こうした仕組みもさることながら、前ページにおけるOG教員の鼎談にもあったように、教職員一人ひとりの“生徒を育てる熱い想い”こそが、一番の特長であることは言うまでもありません。



▲質問・自習コーナーのひとつ。高校・中学の放課後は日々、このような風景が見られます。



▲進路情報室では、担任だけでなく、進路指導部の教員も一緒に連携しながら対応しています。

OG教職員の声

一人ひとりの園児に寄り添う 筑女伝統の教育を継承

小野山 佳代 教諭
(幼稚園・短期大学部OG/平成10年奉職)

幼稚園時代の子どもは、善し悪しといった価値観が芽生える時期なので、人との関わり合いがとても大切です。目に見えない部分だからこそ、大事に育まなければならないと思っています。土台がちゃんとしていなければ、その上には何も積み上げることができないからです。子どもたちの将来を考えると責任は重大ですが、先生である前に一人の人間として自らを問いながら、当園で培ってきた「一人ひとりの子どもに寄り添う教育」を継承していきたいと思っています。



厳しさの中にある教育への 熱い情熱が原動力に

岸田 由美子 教諭
(短期大学部OG/平成10年奉職)

「筑女の幼稚園の先生に!」という想いを強くしたのは、運動会を見学したときでした。私の目には、どこの幼稚園よりも園児と先生が一体になって見えたのです。とはいえ、新人時代、先輩の先生方の子ども一人ひとりに向ける熱い想いを理解したり、保育について毎日のように話し、自分の考えを求められるのは緊張の連続でしたが、その時に言われたことが、経験を重ねる中で自分のものとなり、そしてまた後輩の先生に伝えたい!という想いへとつながっています。日々、子どもたちの成長の瞬間に立ち会える喜びを感じながら、幼稚園のみんなを見守る先生になりたいと思っています。



Part-2

学園に共通する「一人ひとりを大切にする教育」

大学・短期大学部

一人ひとりの成長と自己実現のために

大学・短期大学部ではFD (Faculty Development=大学教員の教育能力を高めるための実践)の一環としてSP(Support Policy=学生のさまざまな活動に対する支援)を明確に位置づけ、キャンパスライフや就職・進学支援も含め、学生が学ぶ環境をサポートしています。

1.多様化する学生に対応した支援体制 教職員と学生が連携しながら、 キャンパスライフを きめ細やかに支援

所属学科の専任教員が務める「クラスアドバイザー」をはじめ、基礎ゼミナール担当教員、卒業ゼミナール担当教員が学習上の問題や悩みに対する身近な相談窓口になっています。また、学内のStudent Roomには、2~4年生を中心に「学生アドバイザー」が常駐。より身近な存在として、学生目線に立った日常生活の相談窓口機能を果たしています。

2.教員と事務職員の情報連携 各学科教員と事務職員が 学生の状況を報告し合いながら 確実にフォロー

各学科に進路支援担当の教員(進路支援委員)を置き、定期的に進路支援課と学生一人ひとりの就職活動の情報を共有。個別に連絡を取り合うことで、学生自身も気づいていない長所を見出し、選択肢を増やすためのキャリア開発に繋がっています。

3.進路支援課の学科専任担当制 一人ひとりをきちんと フォローできる、学科専任の 担当者を配置

各学科ごとに専属の進路支援課職員を配置。就職活動の開始時期に合わせて1人約30分間の

個別面談を、担当する全学生に対して実施し、希望する業界、職種、地域など詳細な情報をヒアリングしたうえでフォローしていきます。その内容は、各種の情報提供、自己分析アドバイスから、エントリーシートや履歴書の書き方、面接対策まで多岐にわたり、必要を感じた場合はメンタルケアを行うことも。担当職員が一人ひとりの情報をきちんと把握することで、キャンパス内でも学生の間に密接



▲「学生アドバイザー」によるフォローアップの様子。同じ学生ということで身近で話しかけやすく、困ったときに頼れる存在になっています。

なコミュニケーション関係をつくり上げ、一人ひとりの学生に最適なタイミングで適切なフォローを行っています。

その他、今年4月からは「天神キャリアセンター」、学内では「実習支援センター」をオープンし、SP活動の充実・発展に努めています。



▲今年4月にオープンした「実習支援センター」では、学生の各種資格取得から、学外実習支援まで幅広く行っています。

OG教職員の声

就職活動はマラソンのようなもの テープを切る瞬間まで全力でサポートします

進路支援課(人間福祉学科・現代教養学科担当)
長澤 典子(高校OG/平成8年奉職)

求人を知ってここに就職しようと思ったのは、筑女での高校時代の思い出が蘇ったからです。当時所属していた百人一首部が団体戦で全国優勝し、学校を挙げて祝賀会を催していただいたのですが、後日その写真をもらいに事務室へ行ったところ、事務職員の方が私の名前を覚えてくださったのです。一人ひとりを把握し、見つけ、支援していただけるその温かさに感激したことを思い出し、私も学生たちの活動を支えたいと思うようになりました。

就職活動はマラソンと同じです。短距離と違って、全力疾走してばかりはいられません。うまく走れないこともあり、言葉にはできない不安や悔しさに押し潰されそうになることだってあるでしょう。そんな時に気持ちをぶつけ、また次の一歩を踏み出すきっかけをつくってあ

げたい。それが私の想いです。ゴールが見えない人には、その場所を示してスタートラインに立たせ、ペースが落ちたら伴走しながら声援を送る。元気な人の場合は、給水地点にスタミナドリンクを用意して待っている。そして最後はゴールに向けてのラストスパートを応援し、たとえ第一希望のゴールでなくても、努力次第でその先にまた夢が広がることを教えられるサポーターで在りたいと思っています。



短期大学部附属幼稚園

恵まれた環境を活かしながら、園児一人ひとりと向き合う教育

1.マニュアルにとらわれない教育 子どもたちの興味に応じて 臨機応変に対応

教育計画は当然立てていますが、それは子どもたちの状況に則したものでなければなりません。だからマニュアルのようなものはなく、目の前の子どもたちが今、何に興味を持っているのかを重視するのが本園の基本。例えば毎年行っている活動も、子どもたちの経験値に合わせて準備段階のどの

部分から参加させることがよいか判断することで、より子どもたちの興味を喚起するように努めています。

2.教員全員で見守り育む体制 子どもたちのわずかな成長にも 教員全員で声かけ

毎日の終礼で園児一人ひとりの情報を共有。他のクラスの子であっても、教員全員が同じスタンスで向き合い、成長を促します。

3.徒歩通園による家庭との連携 子どもたちの情報を 共有することで保護者の 園生活や育児への不安を解消

年少クラスでは、4・5・6月は保護者と一緒に通園してもらい、園での様子や出来事を直接保護者に報告するなど、教育の向上と信頼関係の構築に努めています。



▲今年3月、園舎に隣接する森に誕生した遊歩道「響流(こゝろ)の森」(写真)をはじめ、子どもたちの心と身体を伸び伸び育てるカリキュラムや行事がたくさん!

学園総合

Contents

● Report / 平成22年度 決算報告について

学園

平成22年度 決算報告について

この決算書は、学校法人 筑紫女学園が設置する筑紫女学園大学大学院、筑紫女学園大学、筑紫女学園大学短期大学部、筑紫女学園高等学校、筑紫女学園中学校、筑紫女学園大学短期大学部附属幼稚園及び補助活動（研修所、寮など）を総合計した学園全体の計算書であり、監査法人より適正である旨の報告をいただいています。

1 資金収支計算書について

（表1・資料1）

資 金収支計算書は、当該年度の資金の流れを明らかにするものです。

学生生徒等納付金収入から資金収入調整勘定までの資金収入は、総額86億4,122万円で、これに前年度からの繰越金48億2,229万円を加えた収入の部合計は134億6,351

2 消費収支計算書について

（表2・資料2）

消 費収支計算書は、収入と支出のバランスを明らかにするもので、企業では損益計算書に相当するものです。厳しい環境の中、採算を考えながら経営を行うには、重要な計算書です。

万円となりました。これに対して資金支出は、総額90億4,308万円で、収入の部合計から資金支出を引いた次年度への繰越金は、44億2,043万円となり、前年度からの繰越金と比べ、4億186万円の減少（資金支出超過）となりました。計算書上では繰越金の減となりますが、これは減価償却引当特定資産として10億円の積立を行った結果であり、学園の総資金が減ったというわけではありません。

帰属収入（企業でいう収益）は、総額56億3,687万円で、これから施設設備等の取得に充てた額に相当する基本金の組入額4億4,972万円を控除した額の消費収入は51億8,715万円となります。これに対して消費支出（企業でいう費用）は51億6,609万円で、消費収支差額は2,106万円の消費収入超過となっています。

一般的に経営状況をみる指標として帰属収支差額比率がありますが、本学園は8.4%となり、大学法人（医歯系法人を除く）の全国平均3.7%を上回っています。

なお、基本金組入額の主な内訳には、中学校・高等学校校舎及び体育館建築に伴う借入金3億7,220万円が含まれています。

■ 表1 / 資金収支計算書 平成22年4月1日から平成23年3月31日まで (単位:千円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金収入	4,322,300	人件費支出	3,409,645
手数料収入	89,322	教育研究経費支出	759,151
寄付金収入	42,609	管理経費支出	387,160
補助金収入	1,051,101	借入金等利息支出	16,311
資産運用収入	62,104	借入金等返済支出	372,200
資産売却収入	1,414,542	施設関係支出	50,996
雑収入	99,955	設備関係支出	140,085
前受金収入	360,998	資産運用支出	3,879,860
その他の収入	1,650,309	その他の支出	206,340
資金収入調整勘定	△452,017	資金支出調整勘定	△178,664
前年度繰越支払資金	4,822,286	次年度繰越支払資金	4,420,425
収入の部合計	13,463,509	支出の部合計	13,463,509

〔基準〕第6条では、資金収支計算の目的は、①毎会計年度、当該会計年度の諸活動に対応する全ての収入と支出の内容
②当該会計年度における支払資金の収入及び支出のてん末を明らかにするために行うものとなっています。

● 資料1 / 資金収支計算

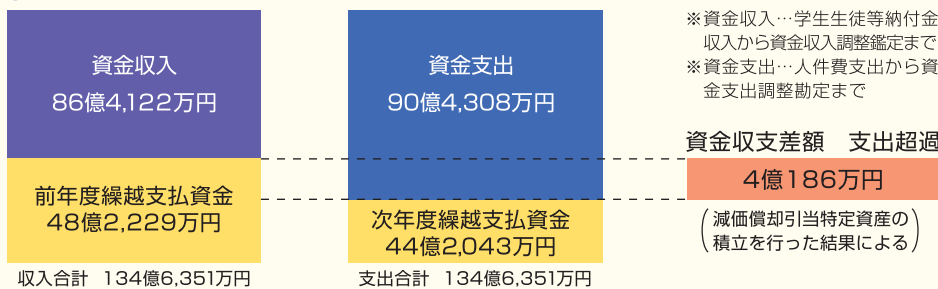
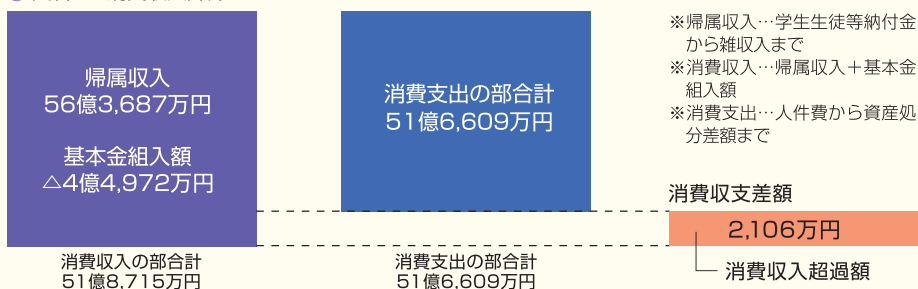


表2/消費収支計算書 平成22年4月1日から平成23年3月31日まで (単位:千円)

消費収入の部		消費支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金	4,322,300	人件費	3,435,193
手数料	89,322	教育研究経費	1,219,840
寄付金	49,865	管理経費	471,745
補助金	1,051,101	借入金等利息	16,311
資産運用収入	62,104	資産処分差額	23,003
雑収入	62,175	消費支出の部合計	5,166,092
		当年度消費超過額	21,058
帰属収入合計	5,636,867	前年度繰越消費支出超過額	120,723
基本金組入額合計	△449,717	基本金取崩額	4,809
消費収入の部合計	5,187,150	翌年度繰越消費支出超過額	94,856

「基準」第15条では、消費収支計算の目的は、当該会計年度の消費収入及び消費支出の内容と均衡の状態を明らかにするために行うものとなっています。

資料2/消費収支計算



帰属収支差額比率※1 = (帰属収入-消費支出) / 帰属収入 ≒ 8.4%※2

※1:一般企業で言うところの「単年度の利益率」。帰属収入に対し、単年度の支出を差し引いた差額(損益)の割合
 ※2:大学法人(医歯系を除く)全国平均=3.7%(平成21年度実績)

3 貸借対照表について (表3資料3)

貸借対照表は、平成23年3月31日現在の財政状況を示すものです。
 資産総額は、241億4,548万円で前年度より2億2,834万円増加しています。一方負債総額は、38億1,677万円で前年度より4億7,078万円減少しています。

67万円で前年度末より2億2,834万円減少しています。その主な原因は、学校・高等学校の校舎新築に係る借入金の減少によるものです。
 今年度末の純資産(基本金+消費収支差額)は、20億4,381万円で、前年度末より4億7,078万円増加しています。

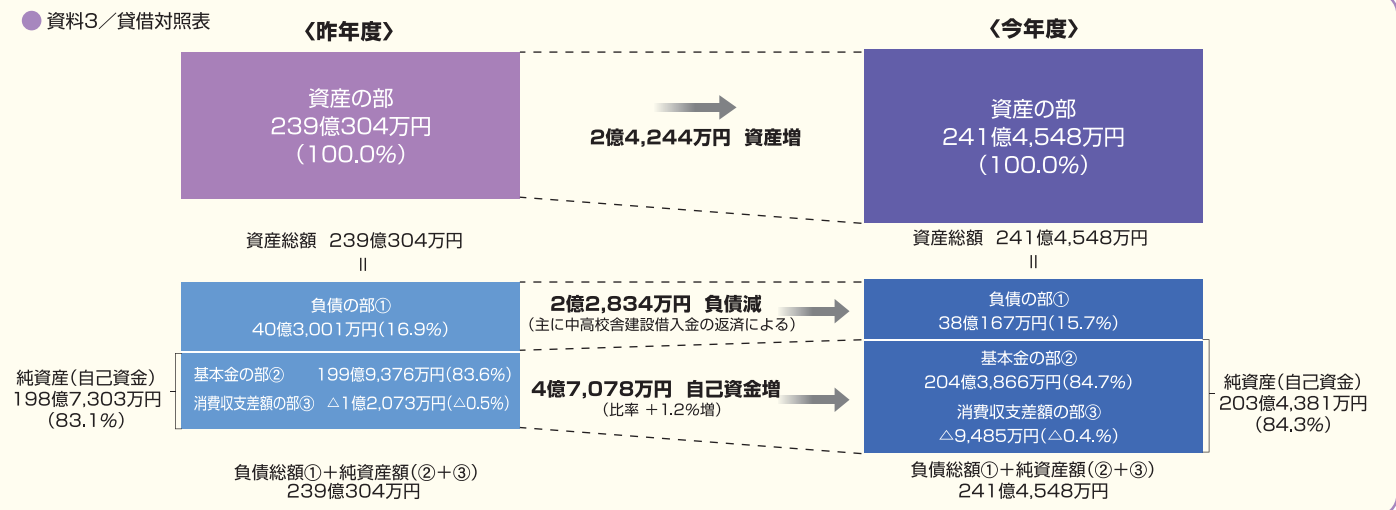
増加しています。資産総額に占める純資産(自己資金)の割合は84.3%となり、前年度末の83.1%を1.2%上回っています。また、基本金は20億4,386万円で前年度末より4億4,491万円の増加となっています。

表3/貸借対照表 平成23年3月31日 (単位:千円)

資産の部		負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部	
科目	金額	科目	金額
固定資産	19,637,801	固定負債	2,518,768
有形固定資産	13,761,767	流動負債	1,282,907
その他の固定資産	5,876,034	負債の部合計	3,801,675
流動資産	4,507,682	基本金	20,438,664
		基本金の部合計	20,438,664
		翌年度繰越消費支出超過額	94,856
		消費収支差額の部合計	△94,856
資産の部合計	24,145,483	負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	24,145,483

「基準」では、貸借対照表は年度末における資産、負債(正味財産(基本金、消費収支差額等)の状態)すなわち、学校法人にはその時点で、どのような資産がどれだけあり、どの様な負債がいくらかあるかなど、法人の保有する財産の権利義務関係(保有状況を表す)の結果、純資産(正味財産)がいくらかになっているか(財政状態)をあらわすものとなっています。

資料3/貸借対照表





公開講座 レポート

水俣学のとびら

「学問のありかたを考える総合的な学問」

学問をするうえで 命の大切さについて 学びました

6月25日(土)、エルガーラホール7階多目的ホールにおいて、本学短期大学部現代教養学科主催の公開講座「水俣学のとびら」が開催されました。

講師は前熊本学園大学社会学部福祉学部教授、元熊本大学体質医学研究所助教授の原田正純先生です。

本講座では、「総合テーマとしての水俣学」について考えました。

「水俣学」は、「水俣病事件を解決するために、これまでの学問のありかたを考え直して出てきた総合的な学問」として位置づけられます。

当時を振り返り、「前例がなく、メチル水銀によるもの」という証明がはっきりしていなかった。有機水銀が原因だと気づいても、どう説明すればよいのか分からなかったと話されました。水俣病以前は、「毒は薄めれば、毒でなくなる」という考えが主流でした。しかし、生物濃縮した毒は、「水俣病」という取り返しのない病気を招きました。原田先生は、「医学だけに丸投げしていたことが問題であった。社会的にも政治的にも、協力して水俣病に取り組みなければならぬ」とおっしゃいました。



【短期大学部】現代教養学科1年 佐藤 舞佳

生活のためであったり、学問が楽しいと感じたりするためだと学びました。学問をしていく内に、「効率よく短時間で終わらせよう」という考えが生じ、研究に関係ないものは省くようになってしまふ。それは、「命を大事にしない」ということにもつながっていく。学問をする上で一番大事なことは、「命をいかに大事にするかということ」とおっしゃっていました。

今回のテーマ「水俣学」というのは、水俣病の原因を探るだけではなく、「水俣病の被害から何を学ぶか」ということが大切だと分かりました。水俣学を通じて、これからの課題と解決方法を考えていくことが、被害者の救済につながり、「水俣学のとびら」が多々の方へ開かれるのではないかと感じました。

2011(平成23)年度 後期 筑紫女学園大学 公開講座

受講料無料

講座名	講師・主催等	開催日時	会場	対象	内容
「アジア塾」 「アジア楽園めぐり」 ① 現世の極楽—平安時代の浄土教美術より— ② インドにおける天界と極楽 ③ 「パラダイス」とエデンの園 (福岡アジアマンス登録事業)	① 緒方知美(文学部講師) ② 小林久泰(学人文化研究所) ③ 大津忠彦(文学部教授) 主催:アジア文化学科	① 10月6日(木) ② 10月13日(木) ③ 10月20日(木) 各19:00~21:00	太宰府市 いきいき情報センター (太宰府市五条3-1-1)	一般 各50名	極楽浄土、天国、エデンの園、「無何有郷(むなうのさと)」等々「理想郷(ユートピア)」像を日本、インド、西アジアの思想、信仰、造形のなかに訪ね、アジアの世界観をあらためて見直します。
日本文学と異文化 —インド・中国・日本— ① 説話文学に見るインド ② 近世小説と中国文学 ③ 妖婦の物語—「後漢書」から泉鏡花へ—	① 宇野智行(文学部准教授) ② 安永美恵(文学部准教授) ③ 桐島薫子(文学部教授) 主催:日本語・日文学科	① 10月15日(土) ② 10月22日(土) ③ 10月29日(土) 各14:00~16:00	太宰府市 いきいき情報センター (太宰府市五条3-1-1)	一般 各30名	日本の文学は隣接するアジア地域から多くの文学的ソースを取り入れながら独自の文学世界を発展させてきました。今回の講座では、中国の歴史書、平安時代の仏教説話、江戸時代の近世小説を手がかりに「日本文学」と「異文化」との出会いの現場を覗いてみたいと思います。
第17回 仏教学研究室公開講座 「親鸞—その思想をめぐって—」 ① 本願—彼岸からの呼び声— ② 自然—おのづからしらすむ— ③ 悪人—親鸞の人間観— ④ 往生—極楽と救済— ⑤ 念仏—仏の名のりを聞く—	① 中川正法(人間科学部教授) ② 栗山俊之(短期大学部准教授) ③ 宇治和貴(人間科学部講師) ④ 宇野智行(文学部教授) ⑤ 小山一行(文学部教授) 主催:仏教学研究室	① 10月8日(土) ② 10月22日(土) ③ 11月12日(土) ④ 11月26日(土) ⑤ 12月10日(土) 各15:00~16:30	浄土真宗本願寺派 明正寺 (飯塚市本町20-9)	一般 各70名	本年は、浄土真宗の宗祖親鸞聖人の750回大遠忌にあたります。「親鸞聖人がその信によって獲得した思想とは」—親鸞聖人がその生涯をかけて説き、かつご自身も歩まれた思想は現代の私たちにも多くの示唆を与えてくれます。仏の願い、自然法爾、悪人正機、浄土往生、他力念仏など、聖人の説かれた教えを共に学びませんか。
人間科学部・人間関係専攻 開設記念 子どもの心とウェルビーイング(しあわせ) ① 今どきの子どもはヘン? ② 災害による子どもへの影響とその支援 ③ 保育の現状と憲法 ④ 「発見された子ども」とは?—子どもの幸福論—	酒井 均(人間科学部教授) 西原尚之(人間科学部教授) 宇治和貴(人間科学部講師) 浅田淳一(人間科学部教授) 主催:人間科学科人間関係専攻	① 10月1日(土) ② 10月8日(土) ③ 10月15日(土) ④ 10月22日(土) 各10:00~12:00	筑紫女学園大学 8号館1階 8103教室	一般 各40名	人間関係という視点から人間の心と福祉を研究しケアしていくという学科テーマのもと、今年「子ども」という共通のテーマに対して、心理と福祉の両側面から4人の研究者がそれぞれの専門を生かしたアプローチをしていきます。「子どものしあわせ」(ウェルビーイング)が善くあることとは何なのか、そして、それを実現していくために我々大人にできることは何なのかを、一緒に考えましょう。
人間科学部・人間形成専攻 開設記念 今、求められる教育とは ~小学校、就学前教育、家庭、地域の役割~	牧野桂一(人間科学部教授) 板井修一(人間科学部教授) 手嶋俊明(人間科学部教授) 大元千穂(人間科学部教授) 福田八穂(人間科学部准教授) 主催:人間科学科人間形成専攻	11月5日(土) 13:00~16:00	筑紫女学園大学 8号館1階 8103教室	一般 50名	保育園、幼稚園、小学校という教育(保育)機関での教育の在り方や家庭、地域の役割を考えながら、今、求められる教育の方向性を考えていきます。
人間科学部・人間形成専攻 開設記念 体験しよう教育の実践 ① いろいろな技法を使って、絵を描こう ② みんなで日本の心の歌を歌おう!	① 一本信治(人間科学部准教授) ② 北原幸子(人間科学部准教授) 今釜 亮(短期大学部講師) 主催:人間科学科人間形成専攻	① 11月19日(土) ② 11月26日(土) 10:00~12:00	筑紫女学園大学 3号館4階 ① 3403教室 ② 3404教室	一般 50名	① 創造・表現の基になるスタンピング・ステンシル・ブラッシング・マーキングなどの技法を体験し、素敵な絵を描きましょう。 ② 小学校における歌唱共通教材曲を通して、歌い継がれてきた日本の心を感じましょう。
「維新起原太宰府記念編」の和歌⑩	赤塚睦男(文学部教授)	11月5日(土) 14:00~17:00	筑紫女学園大学 1号館2階 1202教室	一般 20名	江島茂逸「維新起原太宰府記念編」第17章「五柳排閑(ごようはいもん)の詩歌のうち、壬生基徳(みづもとなが)の作品を読みます。
楽しく学ぶ英語 ① コンピュータを使って楽しく英語を学ぼう ② 音楽で楽しむ英語と文化 ③ 通訳者を使って楽しい英会話をする!	① Jan Stewart(文学部教授) ② Dale Goble(文学部教授) ③ Andy James(文学部准教授) 主催:英語メディア学科	① 11月19日(土) ② 11月26日(土) ③ 12月3日(土) 各14:00~16:00	筑紫女学園大学 飛翔会館2階 コンピュータ演習室2	一般 各30名	これから英語を学びたいという方のために、コンピューター・音楽・言語のゲームなどを利用して、新たに楽しく英語習得の道を開きます。

お申込み・お問合せ 筑紫女学園大学生涯学習センター TEL/092(925)9685 FAX/092(925)3573
〒818-0192 福岡県太宰府市石坂2丁目12-1 Eメール/gakushu@chikushi-u.ac.jp

お申込み方法 ハガキ・FAX・Eメールまたは 本学ホームページ(<http://www.chikushi-u.ac.jp>)より

*お申し込みの際は、①受講希望講座名②氏名(フリガナ)③郵便番号④住所⑤電話番号・FAX番号をご記入ください。*お預かりした個人情報は適切に管理し公開講座の運営以外に使用することはありません。
*定員に達した場合は、締切りとなりますのでご了承ください。

法海

— 今回のテーマ —
今こそ問われる
浄土真宗の在りよう

明治時代から戦前の日本において、多くの真宗教団は当時の国家政策に沿う形で活動してきたと言われています。結果、この国にもたらしたものは？そしてこの先、浄土真宗はいかにあるべきか？その本質に迫ります。

国家政策に追随した 近代の真宗教団

『学問のすゝめ』の「天は人の上を造らずと云へり（傍点）人を造らずと云へり（傍点）執筆（）にはじまる有名な冒頭句が、断定ではなく伝聞態で終わっており、福沢諭吉自身も翻訳したアメリカ独立宣言からの「借り物」に過ぎないことはあまり知られていません。そしてそれ以上に「無宗教を自称する福沢が、浄土真宗（特に蓮如の教え）に共感していたことはもつと知られていないと思います。「多少にても仮名文章の風を学び得たるは蓮如上人の功德なる可し」という福沢は「今の世の中に宗教は不徳を防ぐための犬猫の如し」、「馬鹿と片輪に宗教、丁度よき取合せならん」と述べ、「文明開化」路線から漏れた民衆の善導に宗教が必要であると繰り返し論じています。そ

してそのような彼においては、「往生浄土」に関すること以外は世間の論理に従えと説諭した蓮如の教えが、また迷信や古い信じない浄土真宗の宗風が「文明開化」路線に最もふさわしいと認識されたのです。福沢が期待した通り、近代の真宗教団は国家の政策に追随します。例えば日清戦争における教団の戦時協力は、宗教界にあって突出していました。福沢は東西本願寺教団の「法主」による軍隊布教を次のように賞賛しています。「本願寺の信徒は法主を仰ぐこと生仏の如く、本山の為めとあれば財産生命をも愛しまざる程の次第にして、今回出陣の兵士中には其信徒多きに居るよしなれば、法主自身の懇話はますます従軍者の決心を鞏固ならしめて、戦場の実地に非常の効能を現はす。しかしながら、根強い中国・朝鮮蔑視を背景に、「日清の戦争は文野の戦争なり」

自律の根拠としての 浄土真宗

とまで言い切った主戦論者の福沢に、かくまでも高い評価をされた当時の浄土真宗（教団）の実態とはいかなるものであったのか。なぜ、戦争に積極的に協力したのか。そのような歴史を直視した時、私は初めて自分がよって立とうとする「浄土真宗」に思い悩むようになりました。

私 が自己の問題として本當の意味で仏教・浄土真宗に向き合い始めることができたのは、右のようなことを考えるようになった大学生の時のように思います。逆説的に聞かえるかもしれません。それは従来の「仏教・浄土真宗」を否定的に踏まえることで可能となったと思います。私は、仏教や浄土真宗を学術的に学んできたわけではありません。しかし大学・大学院で歴史学を学ぶ中で、浄土真宗の歴史

にも触れざるを得なくなりました。というのも、近代日本における戦争や部落差別の問題などを学んでいくと、負性において浄土真宗が頻りに登場するからです。以来私は「あの時代は仕方がなかった」という無責任な立場ではなく、真宗僧侶としてそのような過去の歴史に真摯に向き合おうと、少なくともそのような問題意識だけは失わずにきたつもりです。

ですから、私は法話の機会があれば、形式的な勤行だけに終始しまいと、あるいは恩寵的な「報恩感謝」の話に自己満足しまいと、意識的に戦争や差別などの現実的な問題について、本来の親鸞の立場から話すようにしています。そんな時、あるご高齢の門徒の方から次のようなことを言われたことがあります。「難しい戦争や差別のことより、もっと身近な法話をしてほしい」。

その門徒の方は、戦前生まれで戦争を身近に経験してきたはずですから話は複雑です。もちろん、戦争をリアルに経験していない戦後世代の私が、その方の信仰理解を否定することはできません。しかし、本来身近であるはずの戦争や差別の問題を身近なこととして認識し得ない、ひいてはそれを信仰の問題として問うことができない「浄土真宗」の教えとはいったい何なのか。私にできることは、そのような方々と向き合っていくことですが、親鸞以後の歴史の中で、真宗僧侶が門徒の方々などのような布教をしてきたのかを問わざるを得ません。



▲日露戦争に際し「戦勝を喜び万歳を叫ぶ事を止めよ。何となれば此の南無阿彌陀仏は平等に救済給ふ声なればなり」と、例外的に非戦論を展開した真宗大谷派の僧侶・高木頭明。彼を手放しに評価することはできないが「本来の真宗」に立脚せんとした僧侶がいたことも忘れてはならない。

親鸞はとりわけ「屠沽の下類」として石・瓦・礫のように蔑まされ、差別された人々の中に、金となる尊厳性を見出しています。当時の社会権力から疎外された人々の中に自分の身を置いて布教し、そして彼らとともに人格の尊厳を獲得する信仰を共有したのが親鸞でした。それが本来の真宗の立場です。「浄土の真実信心の人は、この身こそあさましき不浄造悪の身なれども、心はずで如来とひとしければ、如来とひとしと申すこともあるべし」とし「生けるものすべての生きとし生けるものに、如来と等しい尊厳性を見出したのが親鸞の立場なのです。しかしそれ以後、非権力的で人格の尊厳を呼び起こす親鸞の教えが継承されてきたのでしょうか。例えば「人界の生はわづかに一旦の浮生なり、

後生は永生の楽果なり」（『御文章二一帖』）というように、死後の極楽往生のみを絶対的な価値とし、はかないこの世では世間の風習に従い適当に生きればよいと布教してきたのではなかったか…。このような立場からは、戦争や差別などの現実的な問題が問われないのは当然です。厳しい現実の中にあるからこそ、それに対峙する仏教・浄土真宗であること。すなわち、従属のそれではなく、自律の根拠としての仏教・浄土真宗たらんことを願ってやみません。

※引用史料における差別用語は、歴史用語としてそのままとしました。

今回の執筆者

本学高等学校教諭
井之上大輔

龍谷大学大学院文学研究科(国史学専攻)博士後期課程単位取得退学。論文「国家神道の成立・展開過程と井上毅の教育政策」「国家神道の成立・展開過程と井上毅の宗教観・宗教政策」「親鸞の人間観」(「方法としての親鸞／仏教」永田文昌堂)など。



学園だより

大学・短期大学部

Contents

- NEWS / 「学生チャレンジプロジェクト」が始動
- NEWS / 文科省の留学生交流支援制度に2件採択
- NEWS / 平成23年度「基本理念と教育目標」発表会を開催
- PEOPLE / ニューヨーク州立大学からの留学生
- 就職の筑女 / 正晃株式会社・大隈彩乃さんの巻

NEWS

「学生チャレンジプロジェクト」が
始動しました

学生の正課外活動を 評価する取り組みです

学

生は、社会に出て活躍する時に求められる様々な力(人間力や学士力)を、授業などの正課教育だけではなく、さまざまな正課外活動を通して身につけていきます。大学や地域社会の問題や課題に対し、主体的に取り組む活動を促すことは、大学にとって大変意義のある支援です。本年度もこうした観点から、今年度より「学生チャレンジプロジェクト」を立ち上げました。

学生チャレンジプロジェクト

トの活動を通して、授業で学んだことを自分たちのプロジェクト活動に活かしていく。そして、プロジェクト活動を通して授業で学んだことをより深く理解するようになる。正課教育と正課外活動が円環的に影響し合うなかで、積極的に学ぼうとする意識や姿勢が生まれてくることが期待されます。さらに、社会で働く有能な

NEWS

文科省・留学生交流支援制度に
本学海外研修プログラムから
2件採択されました

大学の国際化 促進に向けた 取り組みとして

文

部科学省所管日本学生支援機構の「留学生交流支援制度(ショートステイ・ショートビジット)補助金」に、本学が実施している海外研修プログラムが2件採択されました。本事業は、多様な学生の受入派遣の機会を提供し、海外研修のモデルの一つとなることにより、大学の国際化を促進すること

NEWS

平成23年度
「基本理念と教育目標」発表会を
開催しました

本

学では、自己点検・評価活動及びFD(Faculty Development)の一環として、毎年8月に、本学教職員による「基本理念と教育目標」の発表会を開催しています。

今年度は「社会的・職業的自立に向けた本学の支援体制」をテーマとして、学生の社会的職業的自立、いわゆる社会で通用する人材の育成に向けた本学の教育や学生支援体制と日々の取り組みとの関連を再確認しました。

多くの教職員が参加し、活発な意見交換が行われました。



▲各学科・専攻の課題と目標が発表されました。

◀今年度改訂された「基本理念と教育目標」。



▲プロジェクトに採択された学生たち。

People

ニューヨーク州立大学からの留学生

昨年引き続き、ニューヨーク州立大学から2名の留学生がやって来ました。

滞在中はゲストティーチャーとして授業に参加したり、日本の伝統文化や仏教に関する授業に積極的に出席しました。また、留学生サポーターの学生を中心に、彼女たちのために企画された山笠見学や茶道体験、大福作り、柳川川下りなどのイベントに参加し

ながら、生きた日本語・日本語も学びました。昼休みのInternational cafeでは、日本のアニメと共通の話題も多く、たくさんのお喋りで盛り上がりつつある姿が印象的でした。滞在期間は1カ月という短い間でしたが、留学生だけでなく本学学生にとっても、身近な環境での異文化体験・交流を経験する貴重な機会となりました。【国際交流センター】



▲歓迎会にて。

就職の筑女

OGと上司に伺う「筑女生のこと」

VOL.
20

正晃株式会社

管理本部
大隈 彩乃さん の巻

本学卒業生をご採用いただいている企業へ伺うこのコーナー。今回は、福岡市に本社を置き、多彩な商品で医療・研究の一翼を担い、総合試薬ディーラーとして日本一の規模を誇る「正晃株式会社」で活躍中の本学OG、大隈彩乃さん、そして上司の岡倫彦さんにお話を伺いました。

筑女で得た機会と経験が 視野を広げてくれました

社業への誇りを胸に
陰で支える存在を
目指して

自分の価値観に沿って
理系の業界にも挑戦

上司の方に
伺いました

日々の成長を見守りながら
安心して仕事を任せています

自ら考えて行動する
積極的な姿勢と
トータルな人間力を

現在、当社では6名の筑女OGが働いてくれていますが、彼女たちに総じて言えるのは、人としての品格を備えていること。学校に対しても同じイメージを抱いています。

他の社員と上手に「コミュニケーション」をとり、仕事への理解を深めながら着実にスキルを身につけている大隈さんにもその一人。「まだ一年半なのに」と感心することもしばしばで、安心して見守っています。いい人材に恵まれました。

当社は文系の学生さんからの認知度が高いとは言えないため、採用活動は、まず知ってもらうことに腐心しなければなりません。その中で、近年は女子学生に優秀でしっかりした人が多いと感じるようになりました。女性の資質をいかに戦力にしていけるかが、今後の当社にとって重要になってくるとも考えています。

営業職に関しては、商品の納入など、文字通り荷が重い部分もありますが、この春からは女性も1名加わりました。女性ならではの営業スタイルもきっとあるはず。職種を問わず、文系の人にも、ぜひ当社の門戸を叩

部長 岡倫彦さん



▲「新入社員は即戦力ではなくてもいい。成長が大事です」と語る岡さん。

いてほしいと願っています。なぜなら、当社は現在、次代を見据え、関東圏でのシェア拡大と中国・上海への進出を図りつつ、5年後に売上高500億円」という大きな目標に向かって、牽引力を発揮してくれる人材を求めているからです。

よって採用においては、5年後10年後には会社を背負って立つ可能性があるか否かを重視しますが、それは営業職に限ったことではありません。社の目標を達成するには、それぞれが、自分の担当において、目の前の仕事に埋もれず、自らアイデアを出して業務の質を向上させることが不可欠。心の中には本社勤務を希望しながらも、「九州内ならどこでも行きませう」と言ってくれた2年前の大隈さんのように、熱意ある人



▲平成22年、大学・日本語・日本文学科卒の大隈さん。「筑女の簿記講座をきっかけに簿記2級を取得できました。だから伝票処理も苦になりません。在学中に経理へ関心を持って良かった」と語る。

大隈さん。会社への誇りが仕事への高い意欲に繋がっています。大隈さんが勤務する正晃株式会社は、大学や研究機関に納める試薬類や理化学機器、病院や医療機関向けの診断薬や医療機器等、専門性の高い商品を取り扱っているため、一般の人に知られる機会は多くありません。彼女自身「就職活動を始めた頃は、全く知らない業界でした」とのこと。

「合同説明会で初めて知った時は、やっと自分の感覚に合う会社に巡り合えたという思いでした。当時は自分からこれからは何をしたいのか分からず悩んでいたものですから。」

「合同説明会で初めて知った時は、やっと自分の感覚に合う会社に巡り合えたという思いでした。当時は自分からこれからは何をしたいのか分からず悩んでいたものですから。」

今回の登場企業

- 社名: 正晃株式会社
- 設立: 昭和30年3月4日
- 資本金: 5,000万円 (自己資本金56億円)
- 売上高: 417億円 (平成22年度)
- 主な事業内容: 基礎研究用試薬、体外診断用医薬品、理化学機器・医療用機器・分析用機器等の販売・修理など
- 従業員数: 440人 (平成23年4月現在)
- 平成23年度新卒者採用実績: 24名

学園だより

高校&中学

Contents

- NEWS / 「洗心庵・待合・香風亭」が国の登録有形文化財に認定
- PEOPLE / 次々に繰り出す高校図書委員会の新企画
- クラブ活動の成果 / 2011年6月〜8月
- TOPICS / 次世代リーダー養成塾に本校生徒が参加



「洗心庵・待合・香風亭」が国の登録有形文化財に認定されました

学園の精神を受け継ぐ場所

本 学園中学・高等学校 敷地の北隅に位置する

「洗心庵・待合・香風亭」が、国の登録有形文化財（建造物）に認定されたきっかけは、本学園が100周年事業の一環として制作した告知ポスターと『福岡近代遺産』という書籍の存在でした。「告知ポスター」は、学園の歴史と伝統を表現するために香風亭で撮影されたもので、当時学内外からも好評を得た作品でした。ま



▲洗心庵外観。



▲洗心庵内部。



▲香風亭と中庭。

た、『福岡近代遺産』は本学園大学の時里奉明教授が執筆された書籍で、その中の記事の一つとして茶室が紹介されています。

平成21年6月、本学園理事の傍示裕昭氏からの紹介で、福岡市教育委員会文化財部の比佐陽一郎氏と、福岡県文化財保護審議会専門委員である河上信行博士など数名の方が、洗心庵を中心とする茶室・茶庭を文化財保護の観点から視察にみえました。当時学園としては、茶室は初代・二代校長の教育方針で建築さ

れたことは承知していましたが、文化財という視点からはほとんどありませんでした。視察の結果、①本格的な茶室と茶庭であること、②現在も生徒たちが毎日のように使用していること、③都心にあつて希少な緑陰と景観を提供していること、などの理由により登録有形文化財として十分な価値があるとの所見とともに

国に申請してはどうかと提案を受けました。校舎北隅にある茶室は、初代水月哲英校長から面々と続く本学園の歴史の一部であり、また、次代に受け継ぐ重要な資産でもあります。登録文化財として認定されれば、そこに確実さも生じます。福

岡市教育委員会文化財部及び河上信行博士の指導を仰ぎながら申請に必要な図面を整備する傍ら、旧職員で長年茶道部の顧問としてご指導いただいた藤多恵子先生や卒業生で在学中茶道部員だった市原葉子さんへの聞き取り調査などを実施し、ようやく平成22年度末の申請にこぎつ

けました。今回の認定は、生徒たちに一流のものに触れさせたという二代水月文英校長の教育方針と、その意志を繋いでいただいた先達の努力、さらに、建築時から続く茶庭の景観維持があつたからにほかなりません。学園としては、100周年を機に一新された校舎の中にあつて、清閑な空間を備えているこれらの茶室を、学園の精神を受け継ぐ場所として今後も守り続けていきたいと思えます。



次々に繰り出す新企画で本の魅力“を伝える高校図書委員会

近年、私たち高校図書委員会は少しでも生徒の皆さんに本に興味を持ってもらえらるるよう、例年以上に多くの新企画を実施してきました。秋の読書週間における古本市の開催や朗読劇の校内放送、図書委員としての文化祭参加や、他校の図書委員との交流会などです。



▲大濠高等学校図書委員との交流会の様様。

今回はその中から、文化祭への参加、他校の図書委員との交流会について紹介したいと思います。

去る5月27、28日に行われた文化祭では、しおり・ブックカバーや英字新聞で作るバッグなどを、来てくださった方々と一緒に作る、図書委員の手作り講座を開きました。初めてのことで準備は大変でしたが、小さい子どもから大人まで様々な年代の方に「楽しかった」「自分で作ったものだから愛着が持てる」などと言っていたくれました。その言葉に、よりいっそう本や読書に対して思い入れを感じていただきたきっかけをつくれれば良かったと思つとも、この企画への達成感を感じました。

また先日、大濠高等学校の図書委員との交流会を行いました。本校の図書館の見学や委員の活動・図書館利用などについて意見交換をしました。他校で行われている活動やその工夫を伺うことができ、とても充実した交流会となりました。交流会を通して、今後私達が取り組むべき課題や新しくチャレンジしてみたいことが見え、これらも図書館の活性化にいっそう力を尽くしていこうと改めて思いました。

新しく企画を立てて実施していくのはとても大変なことですが、それが皆さんに認められ、成功したときの達成感や喜びはそれまでの苦労以上のものです。これからも私たちは図書館の活性化や本に親しむきっかけ作りにつながるような様々な企画を実施していきます。

【高校図書委員長 高校3年 友松 美奈子】



クラブ活動の成果

THE RECORD OF OUR CLUBS' ACTIVITIES

高等学校

インターハイ

平成23年度全国高等学校総合体育大会は、7月27日から8月20日まで北東北で行われ、本校からは陸上部が出場しました。

陸上部

10種目に出場し、5種目に入賞。総合得点で3位となりました。

【決勝進出】

800m	5位	福嶋 美和子	6位	由水 沙季
1500m	2位	木村 友香		
3000m	3位	木村 友香		
混成競技	7位	前川 萌那		

全国高等学校総合文化祭

平成23年度全国高等学校総合文化祭は、8月3日から7日まで福島県で行われ、本校からは百人一首部、文芸部、箏曲部が出場しました。

百人一首部

読手コンクールの部	最優秀読手	木本 景子
競技の部	奨励賞	渡邊 美弓・溝口 文菜・ 鶴田 紗恵・中村 杏・田代 碧・ 東 衣里香・廣野 珠音

※福岡県代表8名中7名が本校より選出

文芸部

文芸部誌部門	出場	黒田 麻優子
詩部門	出場	横山 万葉

箏曲部

日本音楽部門	文化連盟賞
--------	-------

その他の大会

陸上部

【全国高校総体 北九州地区予選】

●6月16日～19日・長崎県

総合得点	1位	
400m	2位	福嶋 美和子
800m	1位	福嶋 美和子
1500m	1位	木村 友香
3000m	1位	木村 友香
3000m	1位	木村 友香
3000m	4位	園田 聖子
混成競技	1位	前川 萌那
1600mR	5位	(福嶋 美和子・前川 萌那・堀田 瑠紗・古賀 早貴)

【世界ユース選手権大会】

●7月6日～10日・フランス

3000m	7位	木村友香
-------	----	------

ハンドボール部

【全九州高等学校ハンドボール競技大会】

●6月17日～19日・長崎県	
1回戦	本校 26 - 17 佐世西(長崎)
2回戦	本校 14 - 43 那覇西(沖縄)

テニス部

【全九州高等学校テニス競技大会】

●6月17日～19日・宮崎県	
1回戦	本校 3 - 0 福徳学院(大分)
2回戦	本校 1 - 2 鹿児島純心(鹿児島)

空手道部

【福岡県高等学校総合体育大会空手道選手権大会】

●6月4日～5日・福岡県	
【女子団体組手】	ベスト8

(伊藤 慧・中野 千聖・早野 ユキ子・川越 星来・加藤 麻衣・花元 希望子・辻 真由美)

【福岡県空手道選手権大会】

●6月12日・福岡県	
【少年少女組手】	ベスト8 加藤 麻衣

ソフトテニス部

【全国高等学校総体 福岡県予選】

●6月4日・福岡県	
団体	第3位

【近県高校ソフトテニス大会】

●8月10日・福岡県	
個人戦	優勝 櫻田・川崎

百人一首部

【第33回全国高等学校かるた選手権大会】

●7月23日～24日・滋賀県	
団体の部	3位(渡邊 美弓・木本 景子・鶴田 紗恵・溝口 文菜・ 中村 杏・田代 碧・東 衣里香・辛島 友紀)

個人の部

< B級 >	4位	鶴田 紗恵
< D級 >	3位	龍 加那子
	4位	三ヶ尻 智子

文芸部

【第10回全国「高校文芸誌(及び文芸創作)」コンクール】

●8月20日・山口県	
高校文芸誌部門	優秀奨励賞 「いざらみ」第52号

個人作品部門

最優秀作品賞	堀 真帆 「四めもりの棒グラフ」(詩)
優秀作品賞	松ヶ迫 美貴 「嘘月」(詩)
	園元 理佳子 「三分間を生きる」(詩)
佳作	松ヶ迫 美貴 「イノセント・ブルー」(小説)
	園元 理佳子 「渦中」(小説) ほか

放送部

【NHK杯全国高校放送コンテスト】

●7月26日～28日・東京都	
※43年連続出場(全7部門中5部門に出場)	
朗読部門	準決勝進出 吉田 奈央
研究発表部門	研究奨励賞

中学校

中体連

剣道部

【中央区大会】

団体戦	優勝
-----	----

【福岡市大会】

団体戦	ベスト16
個人戦	3回戦敗退 石村 千夏

ソフトボール部

【中央区大会】	2位
【福岡市大会】	1回戦 敗退

ソフトテニス部

【中央区大会】

団体戦	予選リーグ3位
	決勝トーナメント1回戦敗退
個人戦	ベスト16 橋本 知佳・水之江 杏樹

バレーボール部

【中央区大会】

	4位
--	----

卓球部

【中央区大会】

団体戦	2位
個人戦2・3年の部	2位 大町 奈那
個人戦1年の部	2位 江藤 萌恵 3位 三笠 絢音

【福岡市大会】

個人戦2・3年の部	1回戦敗退 大町 奈那
個人戦1年の部	2回戦敗退 江藤 萌恵・三笠 絢音

その他の大会

音楽部

【第78回NHK全国学校音楽コンクール】

福岡県大会	金賞
九州ブロックコンクール	銀賞

【第66回九州合唱コンクール 福岡県予選】

金賞・全日本合唱連盟理事長賞	※九州大会出場決定
----------------	-----------

TOPICS

全国の高校生が集い、熱い議論を交わした14日間! 「次世代リーダー養成塾」に本校生徒が参加しました!

今年で8回目を迎える「日本の次世代リーダー養成塾」(塾長:米倉弘昌 日本経済団体連合会会長 <http://leaderjuku.jp/>)が7月28日から8月10日に渡り、宗像市のグローバルアリーナで開催され、今年も本校から3名の高校生が参加しました。

全国123校165名の高校生が一堂に集い、世界の第一線で活躍する多彩な講師陣の講話に触れました。また、「ハイスクール国会2011-高校生によるニッポン復興会議」では、14日間に渡る熱い議論が繰り広げられ「ニッポン復興計画」を策定しました。



ハイスクール国会の会場にて。
(左から甲斐さん、橋口さん、木村さん)

参加者の声

私を強くしてくれた「志」という言葉

「高校生が考える震災後の日本の復興」というゴールを目指して走り抜けた2週間。世界の最前線で活躍する講師の方々による講義や、スタッフの方、かけがえのない仲間たちのおかげで、自分に自信を持てるようになりました。「引く張るだけがリーダーじゃなく、みんなを支え、頼りにされるリーダーもいる。美友はそうじゃない?」との仲間からの言葉、そして、卒業の日に大学生リーダーから贈られた「志」という言葉は私を強くしてくれました。これからはvisionを持ち、志高く過ごしていこうと思います。参加にあたってお世話になった筑女の先生方をはじめ、多くの皆さんに感謝します。 【高校3年 木村 美友】

自分の生きてきた世界の狭さを実感!

自分の生きてきた世界の狭さを実感しました。参加した高校生は留学経験を持っていたり、東北大震災の被災者支援のプロジェクトを立ち上げていたり、強い意志と行動力を持った人ばかり…。そんな仲間たちと交わしたディスカッションでは、人の意見をしっかりと聞くことで、より多くの視点から物事を見ることができるということを学びました。私は将来、国連で発展途上国の生活向上に貢献したいと考えています。リーダー塾に参加したことで、私はやっとそのスタート地点に立てた気がします。今回の参加にあたり、私に関わってくださったすべての皆さんに感謝したいと思います。 【高校2年 橋口 凌子】

行動に移すことの大切さを知りました

「vision, passion, action! まず行動に移すこと」。私が最も感銘を受けた講義の一節です。新しいことを始めるときに「失敗するのが怖いからやめておこう」「今からじゃなくて次からでもいいよね」と行動を躊躇したり、止めてしまったことがこれまで数多くありました。でもリーダー塾を卒業した今は違います。カリキュラムはハードでしたが、リーダー塾での経験と全国にいる仲間は私の一生の宝! ここで得たものを武器に、これから多くのことに挑んでいこうと思います。期間中、私たちを見守ってくれたスタッフの皆さんをはじめ多くの方に、今は感謝の気持ちでいっぱいです。 【高校2年 甲斐 千紘】

学園だより

幼稚園

News from Kindergarten/SNAP×SNAP/Cover Story

TOPICS

恒例の味噌づくりを今年も行いました

保護者の方にも
お手伝い
いただきました

7月5日、年長組では毎年恒例の味噌づくりを行いました。子どもたちは、普段食べている味噌を手作りすることを喜び、クラスの友だちと力を合せて作っていました。
部屋中に大豆と麴の香りが広がる中、「良いにおい！」と喜ぶ子どももいれば、鼻をつまんでいる子もいたり、我慢しきれずに、こっそり味見する子もいました。味噌づくりの作業は、混ぜたり、練ったり、丸めたり、子どもたちにとって得意なことですが、食品製造なので、クラスのお母さん数名にお手伝いしていただきました。

バケツ稲の収穫とともに
10月頃には食べ頃に

麹と大豆をしつかり混ぜ合わせ、ビニール袋に入れて足踏み作業です。交代で味噌踏みをして十分柔らかくしたら、次はお待ちかねの味噌ボールづくりです。この作業は日ごろやっているどろだんご作りでお手の物。あつという間にたくさんさんの味噌ボールが完成しました。これを甕に投げ入れていきます。ポンツという重たい音、ペチャツとはみだした音、いろいろな音とともに、味噌が甕に入り、無事味噌づくりは終了しました。



▲楽しく一生懸命に味噌ボールを作りました。

了しました。
今から、3カ月寝かせて、10月頃には、年長で育てているバケツ稲のお米の収穫とともに、おいしい味噌が出来上がる予定です。
日本人にとって、食の基本となるお米と、味噌。実際に手作りし、育てていくことで食に対する興味や食べ物の大切さ、有り難さを改めて感じ、本当の味を知っていつか欲しいと願っています。

Contents

- TOPICS / 恒例の味噌づくり
- SNAP×SNAP / 2011年
- 表紙のこと / 中学音楽部の皆さん

夏編

ようちえん's

SNAP×SNAP in Summer

6月1日「稲の土入れ」



“さあ、稲の苗植えだ”
バケツの中にたんぼをつくります。

7月9日「なつまつり」



“いらっしゃいませ”“どれにしようかな?”

6月2日「油山登山」



1時間かけて登った油山、お弁当がおいしい!

6月30日「おみせやさん」



レストラン開店です。“ごちゅうもんは何でしょう?”
“えっと...”

表紙のこと

今回の表紙は「中学音楽部」の皆さん。本校OGで顧問の松本真智子先生曰く「昨年、全日本合唱コンクール全国大会で銀賞を受賞し、部員たちは努力の大切さが改めて分かったと思います」。その言葉に「一人ひとりが責任と自覚を持ってハーモニーをつくる努力を重ねています」と続けるのは部長の大庭美歩さん(3年)。そんな努力が、8月の「NHK全国学校音楽コンクール福岡県大会/九州ブロックコンクール」「九州合唱コンクール福岡県予選」での受賞に繋がり、今年も全国大会出場を目指しています。

The Letter from OG 卒業生からの手紙

2

私の人生に大きな影響を与えた 筑女の先生からの示唆

短期大学OG・渡辺美穂（太宰府市議会議員）

自分のことしか 考えていなかった私が 目覚めたキツカケ

筑
女短大は何の時代？私
にとつては将来を模索
した時代でした。英語を使
って仕事をする、舞台女優
になるといふ全く異質な
夢を持っていた私でしたが、
学校の成績はほぼ一番下。
落第すれすれで漸く卒業
できました。卒業謝恩会で
クラスのアドバイザーだ
った先生から「あら、貴方卒
業できたの？」といわれる
始末。そして卒業と同時に
東京に出て、三船敏郎さん
のもとで芝居の勉強を始
めました。こんな若いから
こそできる無謀なことが
あります。

同時に若い時には見え



渡辺さんの
思い出の
一枚

▲写真部だったクラスメートが
大学キャンパスで私を練習台と
して撮ってくれた一枚。

づらい社会の仕組みとい
うのも必ずあります。それ
を教えていただいたのは
前述したアドバイザーの
先生でした。一年生の終わ
り頃、私は自分なりに将来
を真剣に考えているつも
りでした。そして残り後一
年ここで過ごす意味も考
えていました。おそらく授
業態度にもそれが出てい
たのでしょう。先生から呼
ばれ、将来についてどう考
えているのか尋ねられ、私は
考えていることを正直に先
生に話しました。その時に
一年でも早く自分の夢を
かなえたい、ということも
先生に話しました。黙って
私の話を聞いておられた先
生はふいに「この大学の入
学金や授業料はどなたが
支払っておられるのか？」

と尋ねられました。「両親で
す」と私。「そのお金を支払
うためにご両親はどのく
らいの時間働かなければ
ならないのですか？」「分か
りません」「恐らく一年や二
年ではないと思います。そ
の意味を考えなさい」と言
われました。その言葉は私
を凍らせました。自分のこ
としか考えていなかった
自分を。

私は、今もし自分の生き
る方向で悩んでいる方が
いるとしたら、将来の道は
一つではなく、年齢による
制限はないということも
覚えていて欲しいと思い
ます。自分が社会人として
経済的に自立してからも
道を変更することはでき
ます。大学は中学や高校と
は違い、一見教師と学生の

関わりが希薄に見える環
境です。しかし劣等生だつ
た私の動向をきちんと見
て頂いていた先生の示唆
は私の一生に大きな影響
を与えてくれました。筑女
はそういう学校です。どう
ぞこの学校で出来るだけ
多くの素晴らしい人と出
会い、貴方の夢と勇気を育
んでいってください。

Profile

わたなべ みほ ●
1982年(昭和57年)文京
卒(短期大学英東
約10年間東
の広告代理店勤務
後、上海復旦大学
香港駐在員として
3年間勤務。帰国後、4年間福岡県国際
交流センター勤務。2003(平成15)年、太
宰府市議会議員当選。現在、三期目。

TOPICS

「親鸞聖人750回大遠忌法要」 龍谷総合学園合同文化祭」に 参拝、参加しました

2012(平成24年)1月
16日は、親鸞聖人の750
回忌になります。今年8月
7日、青年対象の大遠忌法
要が勤められ、全国の真宗
青年とともに龍谷総合学
園加盟校の学生・生徒・教
職員の代表約1,000名
が参拝し、本学園中学・高
校からは校長をはじめ、教
職員7名・生徒62名が出席
しました。

法要前日の8月6日は
法要記念行事として「龍谷
総合学園合同文化祭」が平
安学園講堂で開催され、国
内外27学園・71校の中から
全国レベルで活躍する文
化系クラブが優れた公演を
披露しました。どのクラブ
も全国大会の常連だけに、
磨きぬかれたステージは
大変感動的なものでした。

また、この文化祭では43
年連続して全国大会に出
場している本校の放送部
が全体の司会進行と校内
放送を担当し、時にはウィ
ットに富んだインタビュー
などで文化祭を盛り上げ
てくれました。

翌7日は朝10時から、本
願寺御影堂において「親鸞
聖人750回大遠忌法要」
が勤修されました。代表生
徒による献灯・献花に続き、
新たに作られた宗祖讃仰

作法 音楽法要」が加盟校
生徒らによる讃歌衆のリー
ドによって、厳かに美しく
歌われ、門主様や新門さ
まのお言葉をいただいた
約1時間にわたる法要を
終えました。

今回の50年に一度の法
要と、初めて開催された文
化祭を通して、同じ建学の
精神を持つ学校で多くの
仲間が学び、日々努力して
いることを改めて感じさ
せられました。自ら希望し
て参拝してくれた本校の
多くの生徒たちにとって、
この法要と文化祭は、貴重
な経験であったとともに
これから先も、大きな人生
の糧となることだろうと
思います。

【高等学校教諭 戸田証】



▲司会進行で会場を盛り上げた本校放送部。

2012(平成24)年度入学試験要項

学校名	学部・学科・専攻・コース	定員・募集人員	入学試験の種類	願書受付期間	試験日	合格発表日	
大学院	人間科学研究科	10名	一般入試 社会人入試 外国人留学生入試 学内進学入試	1期 23年10月 3日(月)～23年10月 7日(金)	23年10月16日(日)	23年10月25日(火)	
				2期 24年 2月 1日(水)～24年 2月 8日(水)	24年 2月14日(火)	24年 2月21日(火)	
大 学	【文学部】 日本語・日本文学 英語学科 英語メディア学科 アジア文化学科	100名 100名 100名 80名	指定校推薦	23年11月 1日(火)～23年11月 8日(火)	23年11月13日(日)	23年11月25日(金)	
			公募推薦	23年11月 1日(火)～23年11月 8日(火)	23年11月12日(土)	23年11月25日(金)	
			自己推薦	1期	23年12月 1日(木)～23年12月 7日(水)	23年12月11日(日)	23年12月20日(火)
				2期	24年 3月 1日(木)～24年 3月 8日(木)	24年 3月13日(火)	24年 3月22日(木)
	【人間科学部】 人間科学科人間関係専攻 発達臨床心理コース 社会福祉コース 人間科学科人間形成専攻 初等教育コース 幼児保育コース	70名 60名 50名 50名	一般入試(前期日程)	24年 1月 6日(金)～24年 1月23日(月)	24年 1月29日(日)	24年 2月 9日(木)	
			一般入試・センター併用型入試	24年 1月 6日(金)～24年 2月 1日(水)	—	24年 2月15日(水)	
			一般入試(後期日程)	24年 2月13日(月)～24年 2月28日(火)	24年 3月 4日(日)	24年 3月 9日(金)	
			得意科目1教科型入試	24年 3月 1日(木)～24年 3月 8日(木)	—	24年 3月22日(木)	
			大学入試 センター試験 利用入試	1期	24年 1月 6日(金)～24年 2月 1日(水)	24年1月14日(土)・15日(日) 大学入試センター試験 ※本学での個別試験は課さない	24年 2月15日(水)
				2期	24年 2月13日(月)～24年 2月24日(金)		24年 3月 2日(金)
3期	24年 3月 1日(木)～24年 3月 8日(木)	24年 3月22日(木)					
短期 大学部	現代教養学科 幼児教育科	120名 100名	編入学・ 社会人入試	1期 23年10月 3日(月)～23年10月 7日(金)	23年10月16日(日)	23年10月25日(火)	
				2期 24年 2月 1日(水)～24年 2月 8日(水)	24年 2月14日(火)	24年 2月21日(火)	
高等 学校	普通科	80名 (特進5名を含む)	専願入試	24年 1月18日(水)～24年 1月20日(金)	24年 1月24日(火)	24年 1月26日(木)	
		230名 (特進80名を含む)	一般入試(前期)	24年 1月26日(木)～24年 2月 1日(水) <small>※土日は除く</small>	24年 2月 3日(金)	24年 2月 7日(火)	
		20名 (特進5名を含む)	一般入試(後期)	24年 2月 7日(火)～24年 2月10日(金)	24年 2月11日(土)	24年 2月14日(火)	
中 学 校		約220名		23年12月19日(月)～12月27日(火)・24年1月6日(金)～1月7日(土)午前中必着 <small>※郵送のみ</small>	24年 1月11日(水)	24年 1月13日(金)	
幼 稚 園		5歳若干名 4歳児15名 3歳児75名		23年11月1日(火)	<面接日> 23年11月初旬を 予定	—	

●入試要項の詳細はホームページでも紹介しています。[ホームページアドレス] <http://www.chikushi.ac.jp>

大学・短期大学部一般入試(前期日程)の試験会場は、本学以外にも北九州・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島があります。大学では外国人特別入試、海外帰国生特別入試も実施します。詳しくはホームページをご覧ください。

ご案内

大学・短期大学部

● キャンパス相談会
9月23日(祝)9時半～

● 入試相談会(学園祭同時開催)
10月30日(日)9時半～

● 高等学校

● 学校紹介・見学会
9月24日(土)10時～

● 中学校

● 入試説明会
10月22日(土)10時～

● 幼稚園

● 入園説明会
10月19日(水)14時～

皆さまのご来場をお待ちしております。

筑紫女学園からの
お知らせ
Information

寄付

左記のとおりご寄付を頂きました。
紙上・お礼とご報告をいたします。

● 学園奨学金
金 一〇〇,〇〇〇円
大塚 捷道様(香典返し)

協賛

● 文化貢献事業
バリ管弦楽団 福岡公演

今年度は、11月22日(火)に福岡シンフォニーホール(アクロス福岡)で行われる「パーヴォ・ヤルヴィ指揮バリ管弦楽団 福岡公演」に特別協賛いたします。

TOPICS

学園の想いを伝える

新たな広告展開がスタート

今年度から展開している筑紫女学園の新たなブランドメッセージを広く浸透させること、そして、我々の教育に対する想いを広く発信することを目的に、7月から各種メディアをととした広告展開が始まりました。「私は、CJです。」「なりたい私に、なるの。」というメッセージをとおして、本学園に関わるすべての方が誇りを持てる学園、目標に向かって頑張るみなさんを支える学園という想いを伝えていきます。

また、「かなウサ!」という、うさぎのキャラクターも登場します。これは、筑紫女学園でみなさんの夢がかなうさ!という応援メッセージから誕生しました。

なお、学園ホームページの「CJギャラリー」では、各学校の在校生と卒業生が出演する「Webムービー」を公開中です。広告スケジュールも掲示していますので、是非ご覧ください。

かなウサ!



▲筑紫女学園ホームページ「CJギャラリー」www.chikushi.ac.jp/tvcal

オープンキャンパスで大活躍の学生スタッフ



▲朝一番で続々と到着する来場者を学生スタッフ総出でお迎え。

大学 オープンキャンパス (7月24日・8月7日)

参加者の感想でも、「オープンキャンパスツアーなどで丁寧の説明していただき、学校のことがとてもよくわかりました」「在学生のスタッフの方々が、とても親切にいろいろと教えてくださり、娘もこんな学生になれたらいいなと思いました」と高い評価をいただき、学生たちにとっても授業以外の活動を通して自信に繋がる貴重な経験になりました。

「昨」年の参加人数を上回る多くの高校生と保護者の方にご来場いただきました。当日は、総勢約110名の学生スタッフが会場準備、来場者の案内、学校紹介などをサポートし、会場を盛り上げてくれました。

学園の四季折々... 筑紫女歳時記